



日本キリスト教神学小史

教義学の視点から

近藤勝彦 [著]

日本キリスト教神学小史

教義学の視点から

近藤勝彦
Kondo, Katsuhiko



教文館

植村正久、高倉徳太郎、熊野義孝、北森嘉蔵、大木英夫——
私たちは彼らの神学の何を批判し、何を継承すべきか？ 日本を代表する5人の神学者・牧師の教義学の確立と展開に注目しながら考察する。

- 第一章 植村正久の教義学的レガシー
- 第二章 高倉徳太郎『福音的基督教』の日本神学史的意味
- 第三章 弁証法的神学の流入とその意味
- 第四章 熊野義孝『教義学』と終末論
- 付論 熊野義孝のもう一つの問題
- 第五章 北森嘉蔵の「神の痛みの神学」とその問題
- 第六章 大木英夫の「歴史神学的組織神学」の行方

❖著者 近藤勝彦 1943年生まれ。現在、東京神学大学名誉教授、日本基督教団銀座教会協力牧師。著書に『キリスト教教義学』（全2巻）、『キリスト教倫理学』、『キリスト教弁証学』などがある。

四六判・並製・218頁・定価2,420円(本体2,200円+税) ISBN978-4-7642-6186-0 C3016